吉川市立東中学校 学校だより
あじさい
https://www.yoshikawa.ed.jp/higashi-jh
令和７年９月号
全校生徒数　２９０名
〒342-0017
住所：吉川市上笹塚 3-104-1
ＴEL：048-982-0244

「真心」いっぱいの２学期に　～やなせたかしさんの言葉から学ぶこと～

校 長　伊東　猛

いよいよ今日から２学期が始まりました。今年の夏も全国的に酷暑で、暑い日がまだまだ続きますが、朝晩には次第に虫の鳴き声が聞こえるようになり、少しずつですが秋の気配を感じるようになりました。夏休み中は、いくつかの運動部が県大会に出場したり、吹奏楽部がコンクールの地区大会に参加したり、日ごろ練習した成果を発揮して健闘してくれました。

さて、現在放送されているNHK連続テレビ小説「あんぱん」をご存じでしょうか？私は日々録画し、帰宅後毎日視聴しています。この作品は、「アンパンマン」を生み出した「やなせたかしさん夫婦」をモデルにしたドラマで、主人公の2人が戦争などの荒波を乗り越えて「アンパンマン」を作り上げるまでを描いたドラマとなっています。感動的な場面やセリフが多く、好きなシーンを何度も見返すことが多い作品です。

その作品の中では「逆転しない正義」というキーワードが多くつかわれています。これは、作品の中だけでなく、実際にやなせたかしさんが以前から話していた言葉だそうです。やなせさんは、様々な著書でそのことについて語っています。

「正義はある日突然逆転する。逆転しない正義は献身と愛です。それは言葉としては難しいかもしれないけれど、例えばもしも目の前で飢えている人がいれば一切れのパンをさしだすこと。」
（著書「私が正義についてかたるなら」より）

「ヒーローは悪い奴をやっつけるけど、ひもじい人を助けるというのはないんだよね。だから自分が物語を描くんなら、ひもじい人を助けるヒーローをつくろうと思ったんです。それがアンパンマンを描き始めた動機なんです」　（著書「なんのために生まれてきたの？」より）

戦時中「正しい」とされていたことが、敗戦をきっかけとして「悪」とされてしまい、やなせさんは「真の正義とは何か」と悩んだそうです。その中でたどりつた答えが上記の言葉のようです。「お腹を空かした人に、自分の顔をちぎって食べてもらう。」「自分を犠牲にしながら誰かを助けようとする」等のアンパンマンの寄り添い方こそが「本当の強さ」なのだと作品を通して教えてくれているように感じます。

学校生活でも重なる部分は多いと思います。「誰かの言葉に耳を傾けること。」「困っている友達がいたらそっと声をかけること。」「自分のことだけでなく、まわりのことも考えながら動いていくこと」という小さなことを積み重ねていくことで、その一つ一つが確かな力となってクラスや学校を温かい真心いっぱいにしてくれます。

東中では「志を立て真心を育てる東中」を目指す学校像として教育活動を進めています。その中には「誰かのために自分がしてあげられることは、進んで行動する」という意味合いも含んでいます。優しさや真心いっぱいの生徒たちを育てるべく、今学期も教育活動を推進してまいります。